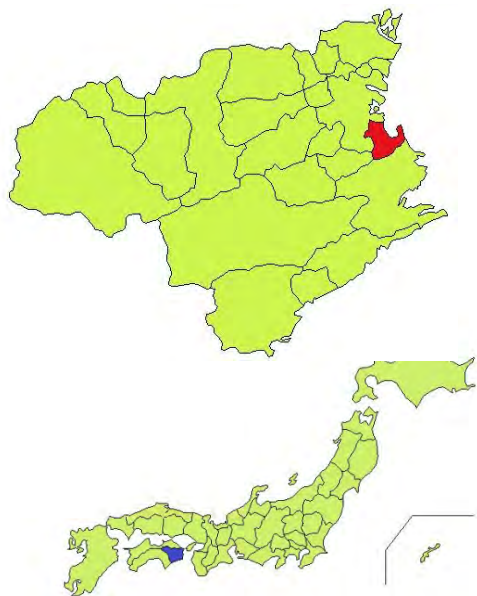


小松島市の有機農業に関する 取り組みについて



小松島市役所農林水産課

小松島市の概要



- ▶ 徳島県の東部に位置。かつては四国と京阪神を結ぶ、港湾都市として発展。
- ▶ 人口：36,134人（令和4年5月末日現在）、面積：45.37km²
- ▶ 現在は小松島市第6次総合計画で位置づけるキャッチフレーズ
「未来へ輝く 希望と信頼のまち こまつしま」をテーマにまちづくりを推進

小松島市の農業の概況

農家数（戸）

	専業	第一種兼業	第二種兼業	自給的農家	合計
平成17年	272	170	724	228	1,394
平成22年	248	167	644	277	1,336
平成27年	327	66	510	263	1,166
令和2年	113	81	567	226	987

経営耕地面積（a）

	田	畑	樹園地	合計
平成17年	112,325	3,339	11,963	127,627
平成22年	114,014	4,490	7,924	126,428
平成27年	101,134	4,064	5,465	110,663
令和2年	107,700	5,100	5,200	118,000

産地戦略作物

オクラ、タマネギ、ブロッコリー

令和2年度環境直接支払による有機農業者数

33名

出典：農林水産省「農林業センサス」

小松島市生物多様性農業推進協議会の発足

項 目	内 容
設 立	平成22年3月1日設立
構成団体	生物多様性農業に取り組む農業者、東とくしま農業協同組合、生物多様性に関連する地元企業、小松島市認定農業者連絡協議会、NPO法人とくしま有機農業サポートセンター、NPO法人里山の風景をつくる会、コープ自然派事業連合徳島県、小松島市、小松島市農業委員会、小松島市教育委員会
会 長	小松島市長 中山俊雄
主な取組	・ 生物多様性保全に配慮した持続可能な循環型農業の推進 ・ 担い手農家、新規就農者の育成支援 ・ 安全・安心な農産物の供給とブランド化



(画像2) 総会の様子 (令和4年度)

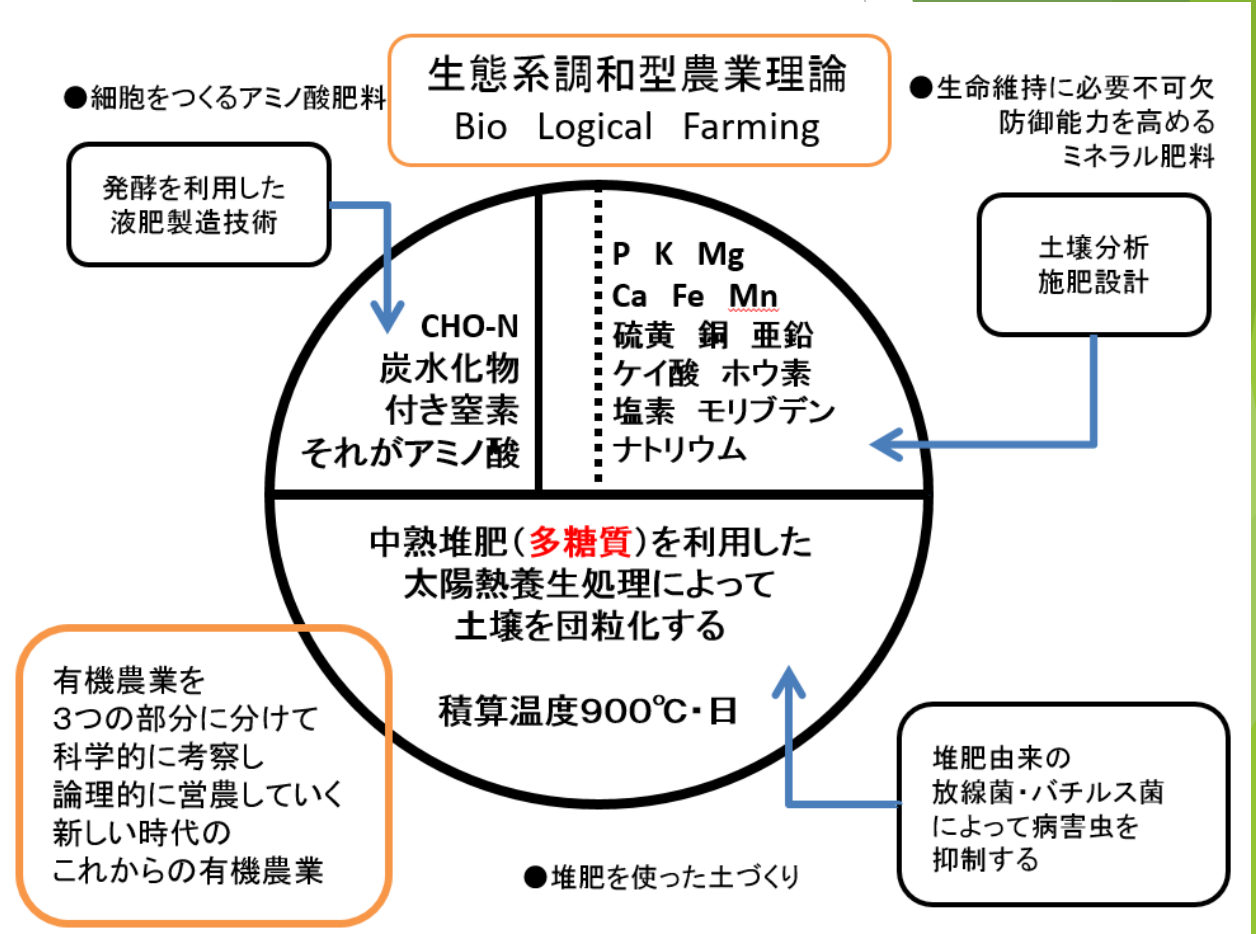
栽培技術講習会の実施

- ▶ 有機農業の第一線で活躍している講師を外部から招き、最先端の栽培技術を学ぶ機会をつくる。



▶ 講師・小祝政明 氏

一般社団法人 日本有機農業普及協会代表。今まで正面切って論じられてこなかった「有機栽培の科学」にせまり、圃場の土壌分析により、有機栽培を科学の視点で数値化し、データを駆使した技術の高精度化を確立し、**BLOF理論（Bio Logical Farming・生態系調和型農業理論）**を提唱。経験やカンに頼るだけでなく客観的なデータによる有機農業の実践を指導。



(画像3) BLOF理論概要 5

B L O F 理論を用いた水稻栽培の推進

● 県内産肥料・堆肥の積極的活用



(画像4) (株)豊徳による“みみず覆土”



(画像5) オンダン農協による“なっとく有機”

● 協議会独自の認証制度



各種要件を設定し認証制度を設定。各種イベント等にてPRを実施

(画像6) 認証米シール

● インストラクターによる指導



土壌分析・施肥設計を生産者自身で実施できるよう指導

(画像7) 生産者による土壌分析

● 勉強会の実施



定期的に勉強会を実施して生産者の技術の向上をはかる

(画像8) 勉強会風景

→ 水稻（有機・特別栽培）作付面積は
平成27年度2,500a → 令和2年度3,901a へ増加

認証米を活用したPR及び社会貢献活動

▶ ふるさと納税の返礼品

⇒「たんぼ米」の全国展開、地方創生のきっかけとして

▶ 田んぼの生きもの図画・川柳（後述）の賞品

⇒子どもたちにも生物多様性農業に興味・関心を

▶ 経済的に困窮されている方々へ無償提供（令和2年度産）

⇒コロナ禍等によって経済的に困窮されている方々へ

小松島市社会福祉協議会を通して無償提供

（イベント減少による余剰分を活用）



（画像9）ふるさと納税掲載画面

オーガニック・エコフェスタへの開催協力

- ▶ 有機農業技術者への情報発信、また、消費者が有機農業に理解を深めてもらうためのイベントとして毎年開催。
- ▶ イベント内では、「栄養価コンテスト（現 身体に美味しい農産物コンテスト）」を実施。高品質・高栄養価の野菜の生産者を表彰。
- ▶ 実行委員会は複数の団体で構成されており、本市協議会も現在は協賛メンバーとして参加。
- ▶ 平成23年度より開催。令和2年度はオンラインによるイベントの公開も実施。
- ▶ 令和3年度は長野県松川町、京都府亀岡市、大分県臼杵市とのトークセッションを開催。



（画像10）栄養価コンテスト受賞式



（画像11）消費者イベント風景

学校教育との連携①

▶ 生きもの調査イベントの開催

NPO法人や地元生産者、土地改良区等の協力を得て、児童らを対象に市内の田んぼや水路で実施。

田んぼの生きものや生物多様性農業に興味や関心をもってもらうだけでなく、地域コミュニティの活性化の面も。

【各年度毎の開催回数】

- ・平成29年度：7回
- ・平成30年度：5回
- ・令和元年度：6回

※令和2年度以降はコロナ禍により開催を見送っているが、今年度はスタッフ養成のための田んぼの生きもの調査を予定している。



(画像12) 生きもの調査風景

学校教育との連携②

▶ 田んぼの生きものの図画・川柳コンクールの実施

市内の小学生を対象に、夏休みの課題として「田んぼの生きもののふれ合い」をテーマに図画及び川柳を募集。

有識者や協議会幹事等による作品の品評が行われ、受賞者を決定。

例年 1 1 月頃には協議会会長（市長）による表彰式を開催。

田んぼの生きものや光景を作品に表現することで、児童に生物多様性農業への興味や関心をもってもらうことが目的。

【各年度毎の総応募作品数】

- ・ 平成 3 0 年度：図画 8 6 作品、川柳 1 8 7 名・ 3 4 8 作品
 - ・ 令和元年度：図画 1 2 7 作品、川柳 1 8 4 名・ 3 0 5 作品
 - ・ 令和 3 年度：図画 8 8 作品、川柳 2 0 5 名・ 2 9 7 作品
- （令和 2 年度はコロナ禍による小学校の夏休み短縮により中止）



（画像13）図画・川柳展示風景

今後の課題



地域循環型農業の一層の推進を図ることが可能

みどりの食料システム戦略緊急対策交付金について

▶ 有機農業産地づくり推進緊急対策事業

協議会を事業実施主体として現在申請中。

【現時点で実施予定の取組】

- ・ 新規取組者向け有機農業講習会の開催
- ・ 土づくりを始める農業者へのフォローアップ
- ・ 小松島市産認証米のブランディング
- ・ 食育を目的として、栽培期間中、化学合成農薬及び化学合成肥料を不使用の米を、市内小中学校の給食に9月から順次導入。
- ・ 県外イベントへの出展 etc...

< ご清聴ありがとうございました >